

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー : 法哲学 ILAS Seminar :Philosophy of Law		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor,KIKUCHI KYOSUKE	
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks 1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman) 15 (12)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods Wed.5
Classroom	3A, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. North Wing				Language of instruction Japanese
Keyword	基礎法学 / 法哲学 / 法理学 / 法思想 / 社会思想				
(Students of Faculty of Integrated Human Studies cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department.)					
[Overview and purpose of the course]					
<p>現代社会を支える基本的な仕組みである法は、事細かな条文や裁判例として現れる一方で、その内容や運用は、背景として存する原理や理論、思考様式、さらには歴史的経緯によって支えられる。さらに、社会状況や科学技術も、法を大きく左右する背景である。本授業は、文献講読を通じて、それら法を支える基礎理論や背景を探究するものである。</p> <p>法および法学のあり方や前提について広く深く分析する視座を獲得し、我々の生きる社会を問い直すきっかけを見つけてほしい。</p>					
[Course objectives]					
<p>法や法学を支える基礎的な思想や原理に関する知見を得る。 法、法学さらには社会制度のあり方について、多角的・根源的に考察する能力を養う。 議論の構造や要点を的確に把握するとともに、一步踏み込んで自ら考える姿勢を身につける。 自分の抱いた疑問点・不明点を言語化し、他人に伝えられるようになる。</p>					
[Course schedule and contents)]					
<p>前半の数回では、テーマに関する基礎文献を講読する。それを踏まえて、後半の回では、関連する内容から各自でテーマを設定して、調査・検討のうえ報告してもらう。いずれも、教員による解説を適宜交えつつ進める。</p> <p>本年度のテーマとしては、「AIと法」「法的思考とAI」などを考えている。もっとも、法哲学は何をやってもよい学問分野なので、受講者の希望と同意がある場合には、（法、政治、社会に関わる範囲内で）異なるテーマへと変更する。</p> <p>第1回 ガイダンス。今後の授業の進め方や報告の仕方などを説明し、テーマおよび文献の選定ならびに報告日の割当てを行う。あわせて資料作成に関する初歩的な説明も行う。</p> <p>第2-14回 前半：特定の文献を対象に事前に指定した範囲を読んで授業に臨んでもらい、その内容についてディスカッションを行う。ここでは特に報告者を指定しない。</p>					
<div style="text-align: right;">Continue to ILASセミナー : 法哲学(2)</div>					

ILASセミナー：法哲学(2)

後半：指定された報告者による発表と全体でのディスカッション。報告者には、発表用資料の作成と提出を求める。受講者数によってはグループでの報告となるので、その際には報告者間で十分に打合せをして臨みたい。

第15回
フィードバック

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

報告回におけるプレゼンテーションと質疑応答（50点）、それ以外の回における議論への参加と発言内容（50点）によって評価する。なお、出席回数が10回に満たない場合には不可とする。

[Textbooks]

Instructed during class
必要に応じてプリントを配付する。

[References, etc.]

（References, etc.）
Introduced during class

[Study outside of class (preparation and review)]

自身の報告回であるか否かを問わず、予め指定された文献を読み込んだうえで出席してください。

[Other information (office hours, etc.)]